７月２６日当組合の鹿児島協議会を開催
理事長堀　尚義、副理事長山本　実、理事柏田　芳美の３名が参加し、
南九州地区の景況等について有意義な情報交換を行いました。

（１）平成23年７月27日（水）第１２５０７号　（禁無断転載）鹿児島　建設新聞

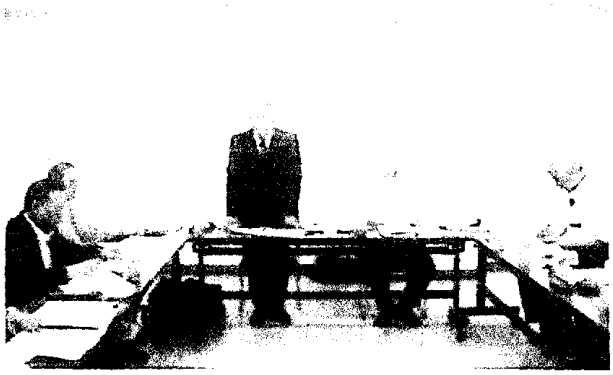
かごしま 建設新聞

建設コンサルタンツ協組鹿児島協議会

地方会員の声反映を

建設コンサルタンツ協同組合（堀尚義理事長）は26日、鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で鹿児島協議会を開いた。堀理事長をはじめ、鹿児島の組合員ら9人が参加して、中小企業を中心とした組織の活性化や土木設計技士の認定、会員拡大について活発な意見交換が行われた。

会の冒頭、堀理事長は「同組合は中小企業の有志で共同受注を目的に発足。しかし、会員の減少や土木設計技士の認定問題など問題は山積している。あらゆる角度から建設的な意見をお願いしたい」と挨拶。また、本県を代表して大福コンサルタント㈱の福田光一社長は「地方会員の声を反映させるために、組合の戦略や取り組みなど実のある議論やアドバイスをお願いしたい」と要望した。



建設的な意見交換が行われた協議会＝鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で

協議会では、土木技術士の現状について「特別講習や研修会を行い、有資格者の育成に力を注ぐこと。また、組織の活性化につなげるためには、バックアップや環境整備が必要になる」などと議論。さらに、発注者側に組合のメリットや柱となるものを明確に示すことでパイプを広げ、災害協定の締結や中央省庁への陳情活動、組合員の連携強化で会員の拡大を図ることにした。

また、東日本大震災の復旧作業に係わる共同受注など、長期にわたる参画を模索できないかについても検討された。

川内川河川

国土交通行政功労表彰式

受賞企業の功績称える

写真に納まる関係者＝薩摩川内市の川内川河川事務所で

九州地方整備局川内川河川事務所は26日、薩摩川内市の同事務所で23年度川内川河川事務所国土交通行政功労表彰式を行った。工事・業務の円滑な推進に貢献した優良施工業者および優秀個人に表彰状を贈り、その功績を称えた。

表彰式では、優良施工業者（工事部門）で林建設㈱（園木分水路上流部3次掘削）など3社、同（業務部門）で3社、優秀現場代理人（監理技術者部門）3人に久保朝雄所長が表彰状を授与。「これを契機にさらなる技術の研さんに努めていただきたい」と激励した。

これを受け、受賞者を代表して林建設㈱の林隆秀社長が謝辞。「より一層、公共工事の品質確保と現場の安全管理等に最善を尽くしていきたい」と決意を述べた。

受賞者は次の通り。

優良施工業者（工事部門）＝林建設㈱、松田建設㈱、㈱平原組▽同（業務部門）＝中央コンサルタンツ㈱福岡支店、いであ㈱九州支店、八千代エンジニヤリング㈱九州支店▽優秀現場代理人（監理技術者部門）＝西田良光（外薗建設工業㈱）▽田中薗（ヤマゲチ㈱）▽久保薗（㈱田代組）

建協加治木支部

防疫協定締結

機動力で地域守る

県建設業協会加治木支部（木山冷蔵支部長）は25日、姶良市の姶良家畜保健衛生所（永徳正裕所長）で同衛生所と家畜伝染病の発生時における緊急防疫業務に関する細目協定を結んだ＝写真＝。

協定は、5月18日に県と県建設業協会など県内4団体が初動防疫の協力体制を図るために締結した協定に基づいて行われたもの。

調印式には、加治木支部から木山支部長と塚田洋一、岩澤英司両副支部長、姶良家畜保健衛生所から永徳所長らが出席。それぞれ協定書に調印を行い、協定を締結した。

調印後、永徳所長は「防疫や埋設活動などで力を借りることになり、非常に心強い。特に殺処分における埋設作業は要になるので、うまく連携を図り本県の畜産業を守りたい」と語った。木山支部長も「機動力を発揮して畜産業などを守れるよう頑張りたい」と述べた。

大口、栗野支部も

また、7日に県建設業協会大口支部（藤井和三郎支部長）と同栗野支部（田上俊廣支部長）も、姶良家畜保健衛生所と家畜伝染病の発生時における緊急防疫業務に関する細目協定を結んだ。

なお、3支部は昨年宮崎県で家畜伝染病の口蹄疫が発生した際、県から要請を受けて本県への伝染病の侵入を防止した実績がある。

建協加世田支部役員パト

熱中症対策を喚起

県建設業協会加世田支部（大坪稔明支部長）は25日、支部役員によるパトロールを実施した＝写真＝。本格的な夏に突入し熱中症対策の徹底を促すとともに診断員は、現場担当者らに安全管理の徹底を図るよう意識の高揚を求めた。

今回のパトは、南九州市が9月の供用に向けて知覧町郡に整備を進めている学校給食センター建設の外構工事現場（㈱堀之内建設施工）を近藤友征理事と今村次典理事が診断。三大災害防止対策、安全施工サイクル運動の実施状況などを中心に診断。

施工を担当している㈱堀之内建設の白坂真二現場代理人が作業内容と安全対策について説明。近藤理事からは「雨が降ってきたから滑りやすい。法面作業時には特に気をつけて」と注意を促した。

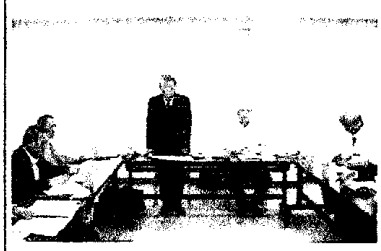
また、現場事務所では、安全日誌や施工計画書などの記録・記載もれ、施工体制図、危険予知活動表などの掲示物を入念にチェック。現場代理人らに安全管理の徹底を呼び掛けた。

建設コンサルタンツ協組鹿児島協議会

地方会員の声反映を

建設コンサルタンツ協組合（堀尚義理事長）は26日、鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で鹿児島協議会を開いた。堀理事長をはじめ、鹿児島の組合員ら9人が参加して、中小企業を中心とした組織の活性化や土木設計技士の認定、会員拡大について活発な意見交換が行われた。

会の冒頭、堀理事長は「同組合は中小企業の有志で共同受注を目的に発足。しかし、会員の減少や土木設計技士の認定問題など問題は山積している。あらゆる角度から建設的な意見をお願いしたい」と挨拶。また、本県を代表して大福コンサルタント㈱の福田光一社長は「地方会員の声を反映させるために、組合の戦略や取り組みなど実のある議論やアドバイスをお願いしたい」と要望した。



建設的な意見交換が行われた協議会＝鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で

協議会では、土木技術士の現状について「特別講習や研修会を行い、有資格者の育成に力を注ぐこと。また、組織の活性化につなげるためには、バックアップや環境整備が必要になる」などと議論。さらに、発注者側に組合のメリットや柱となるものを明確に示すことでパイプを広げ、災害協定の締結や中央省庁への陳情活動、組合員の連携強化で会員の拡大を図ることにした。

また、東日本大震災の復旧作業に係わる共同受注など、長期にわたる参画を模索できないかについても検討された。

中央工業安全大会

安全を当たり前に

中央工業㈱（肥後勝彦社長）の23年度安全大会が26日、鹿児島市の鹿児島管工事会館であった。社員や協力会社から約90人が参加し、労働災害防止を誓うとともに、さらなる安全意識の高揚を図った。

安全施工の徹底を呼び掛けた大会＝鹿児島市の鹿児島管工事会館で

肥後社長は「日々の挨拶、体調管理など当たり前のことが労災防止につながる。安全作業に対する意識を高め、災害ゼロを目指そう」と挨拶。また、協力会社代表の園田二郎㈲不撓工業社長が「いかなる場合でも安全を最優先に考え、互いに協力しながら、無災害での完工を目指していきたい」と述べ、安全施工の徹底を呼び掛けた。

大会では、安全表彰の表彰状は次の通り。

従業員表彰＝片平浩二、吉利昇▽協力会社表彰＝瀬田義隆（桜ケ丘設備）、篠田秀志（㈲城間設備）

安全表彰は次の通り。

最後に、同社の大坪吉和さんが力強く安全宣言し、大会を終えた。

ザ・ガーデン鹿児島

「夏を涼しく」を提案

ザ・ガーデン鹿児島（都北産業㈱、都城市）は23、24日、姶良市加治木町で「オープンガーデン」を開催。わが家の庭づくりの参考にしようと、多くの家族連れが訪れた＝写真＝。

今回の会場は、長年使用したウッドデッキをリガーデンしたもの。開放的なテラスには、風合いあふれる洗い出しやタイル、石張りを使用することで庭との一体感を演出。また、ローメンテナンスでありながら、自然を損なわず、スタイリッシュな仕上がりとなっている。

同社の田中洋一部長は「今回は開放感あふれるエクステリアで夏を涼しく過ごしてもらいたいと開催しました。当社ではデザイン集や材料サンプル、施工例など豊富にご用意しています。気軽にご来店ください」と話した。

ほか、鹿児島労働基準監督署の田原宗治地方産業安全専門官と山口大輔副主任監督官が、災害発生状況や熱中症対策、労働基準法のポイントなどについて安全講話を行い、労災防止の重要性を再確認。田原専門官は「日ごろの安全活動が大切。一人ひとりが焦らず注意し、皆で協力しながら取り組んでほしい」と訴えた。